

パネル敷設工事

必要な材料及び工事

材料 床トピアパネル
シームレスパイプ
赤アルミテープ

工具 コンプレッサー
釘打ち機
パイプ回転台
圧カゲージ
ゲージ用コネクタ
入線液
線通し



パネル敷設

A パネルを敷く時の注意点としては、次の3つがあげられます。

1. 動線に対する配慮

人が生活する上での動線を考え暖房範囲がお互いに離れている場合は、上記の様な部屋周辺部の空きをとらずに、お互いの部屋との開の見切りのところまで詰めて敷きます。

2. 足元に対する配慮

キッチン流し台・洗面台・カウンター・便器・造り付家具等の足元付近は生活上で常に足元が触れる場所です。このような場所が暖かくなないと暖房効果に不満を感じるものです。それぞれ、家具の奥行きを確認し、流し台・洗面台等の場合には蹴込みの中まで十分に暖かくなるように注意して施工します。

B 周辺部床面の空き具合を検討します。
木造の場合は柱から、RC造の場合は、躯体からの空き寸法は100mm~200mm程度が適当です。

C 根太方向、フローリング張り方向を考慮に入れ回路設計で決定したパイプの流れ方向に揃えてパネルを釘打ち機等で固定します。

圧力テスト

各回路施工が終了したら、次に圧縮空気(5kg相当)をパイプにかけてしばらくの間放置します。

パネルの施工後、フローリングを張る時にクギでパイプに穴を空けてしまう場合があります。その際、圧力ゲージの目盛り・空気が漏れる音等によりパイプの欠損を確認するためでもあります。

1. 熱源機廻り工

ヘッダーの取り付け及び接続

ヘッダーには熱動弁とヘッダー一部を工場で組み込んである一体型(8回路まで)と、現場で各回路数に応じてヘッダーと熱動弁を組み立てる現場型の2つの種類がありますが、ここでは一体型(8回路)ヘッダーの説明をします。

熱源機の暖房行き・戻りパイプにヘッダー行き用・戻り用をそれぞれ接続します。

次に各部屋の温水パイプを行きヘッダー、戻りヘッダーに工具で接続します。

c ヘッダーの取り付け

回路数に応じてヘッダーの数も増えますが一体型のヘッダーの場合

8回路までならボイラーと一体型のヘッダーで対応できます。
それ以上の場合別にヘッダーボックスを設けることとなります。
熱動弁は、ヘッダーを戻り側に取り付けますが、熱源機設置状況により変更する場合があります。
また、熱動弁なしヘッダーを行き側に取り付けます。